

34 回生の皆さんへ（今日は長文です。心して読んでください。）



推理小説が好きで、色々な本を読みました。

好きな作家の本はほぼ読んでしまい。書店でも心惹かれる本に出合うこともまれで、次に何を読もうか迷っていたところ、ある雑誌に紹介されていた横溝正史の金田一耕助のシリーズに出会い、発行された順を追って読んでみることにしました。

元々、なぜ推理小説が好きなのか？と自分に問うたとき、「答えを見つける達成感」と結論付けていました。しかし、どんな人でも自分が楽しんで読んでいる本のストーリーを既読者にバラされてしまうと腹が立ちます。「答えを知る」ことでなく「答えを知る過程」「自ら答えを導いていく過程」に面白さを感じているのだと思いました。特に推理小説は結論である「事件の真相」の答えは基本的に1つです。

つまり、結局は数学と同じなんだなー、と思うようになりました。

さて、金田一シリーズの話に戻ると、主人公は金田一耕助であり数々の事件を解決していきます。時代背景は昭和の初期のころですので、その事件のトリックは今では通用しないものも多いです。ですが言い方を変えると、現在の警察における科学的操作の知識や、探偵ガリレオのような物理学の見地を必要としない推理小説の基礎といってもいいかもしれません。また、このシリーズは本によって“語り手が変わる”という手法が用いられ、常に金田一目線で物語が進んでいかないのも魅力の一つです。最後の数十ページにしか金田一耕助が登場しない作品もあります。問題解決のための多様な視点を用いる。

あー、これも数学と同じなんだなー、と思うようになりました。

34 回生の皆さん、休校中の自己研鑽は続いているでしょうか。今日は自分のどの部分を成長させることができましたか？

SR で取り組んでいる探究活動の進捗状況は順調でしょうか？答えのない問いに対する研究は難しいことですが、興味のあることの研究に打ち込むことができることは幸せなことです。しかし、「答えのない問いを探究する」ためには「現在、答えのある問いには答えることができる知識と能力」が必要ではないでしょうか。難しい言い方をしましたが、基本的な学力のことです。

休校期間中、数学の学習に勤んでください。高等学校の数学は論理的思考力の育成を大きな目的の一つとしています。文系理系に関わらず、問題解決能力に直結する非常に重要な力です。答えには必ず根拠があり、その根拠が人を納得させ、結論が真であることを裏付けるものになります。県立学校の休校にも、インターハイの中止にも根拠があります。納得してくださいとは言いませんが、その根拠の1つには高校生のこの先の未来があります。大切なものと引き換えにしたこれからの未来を創る力を積み重ねることが、今のあなた方にできる最大の使命です。

さあ、今日も頑張りましょう。明日、成長した自分を想像して。

数学科より愛をこめて